

ふるさと交流だより

農村ボランティア会員会報

農村ボランティア交流の集い(11月7日開催)

11月7日(日)神戸市産業振興センターにおいて農村ボランティア会員研修会「交流の集い」を開催しました。活動事例の発表では、丹波市笛路地区でふるさとむら発足時から活動を続けておられる鈴木秀明さま、この夏から豊岡市の小河江地区で活動を始められたばかりの靄山修一郎さまに、普段の活動や今後の展開についてお話を伺いました。鈴木さまからは当日の発表内容、靄山さまからは小河江地区での交流会についてご寄稿いただきました。

私は、丹波市山南町の笛路で活動をしています。

「農村ボランティアの活動報告」をするようにとの依頼を受けたのですが、今回発表するまで「ボランティア活動をしている」意識はなく笛路で過ごしてきました。

笛路には、山があり、田畑があり、鳥や動物や昆虫がいてワクワクする場所、と感じています。ですからボランティアというより、「親戚の家に遊びに行く」という感覚でした。

参加し始めたころは、私たち都市部の会員が参加する日は6月・10月・11月・3月の年4回で、内容は苗を植え、次回来るときは収穫という状態で、地元の方に負担をかけた農村ボランティアと呼ぶのには疑問符のついた活動だったと思います。

平成21年度から、「笛路の郷」に本部をかえて、活動は毎月1回(1月・8月除く)の年10回行っています。新しい交流施設の名前、「笛路の郷」は参加会員で検討して決めた名前です。活動は、会員を部会に分けて作業計画を組みました。

部会それぞれの作業内容は次のとおりです。稲作部会は、田植え、草引き、稲刈り。野菜部会は、畝づくり、種まき、苗植え、草引き、収穫、土づくり。里山部会は、下草刈などの整備、しいたけ栽培・カブトムシ飼育。フレッシュ部会：笛路の食材で昼食・菓子などの作成、寿司や梅干など加工。黒豆部会：土づくり・苗植え、草引き、収穫、です。季節に応じて各部会が協力し合って作業を行っています。

自分たちで作った作物を自分たちで収穫して口にしています。これは、地元の方の「会員には本格的な農作業応援を期待するのではなく、農作業を通じて栽培する楽しみや苦勞などの作物を作る大切さ、安全な食育、新鮮野菜の本来の味や香りなど消費者として実践教育の中で身につけてもらいたい。そして会員の故郷のような存在になればよい。」という願いから実践されているスタイルです。

会員は、いろいろな人が参加しています。農作業技術や取り組み姿勢・意識レベルの差はありますが、月1回の活動日以外に自主的に草引きなどに来る会員が増えてきました。

自然が好きで、農作業が好きで、収穫物が好きで、人が好きで、笛路が好きなたちが集まる「笛路村」です。特別に募集はしていませんが、口コミで、参加

者が家族・友人を連れてきて会員は増えています。

地元の方々のご協力とご努力のもと、笛路を楽しみたい人達と一緒に、笑顔で・土まみれになって、作業と交流を続けて行きたいと思います。



鈴木秀明さま

◆活動研修会に参加して◆

(豊岡市小河江地区での蕎麦の種まき&草刈)

8月22日(日)、小河江地区での蕎麦の種まき&畦の草刈に参加いたしました。当日は、猛暑で作業開始の午前10時頃には既に暑く、汗かきの私は、それまでにスポーツドリンク500mLがなくなっており、10時過ぎより地区の方々から作業についての説明があり、当日集まったメンバーを3チームに分けて作業を開始しました。

作業は、「蕎麦の種まき」「蒔いた蕎麦の種を畑の土にまぶす」「畦の草刈」の3項目に分けて行われました。私は、午前中「蒔いた蕎麦の種を畑の土にまぶす」作業を行い、午後からは、「畝の草刈」を行いました。

種を畑の土にまぶす作業とはどのようなものか想像ができずにいると、熊手をひっくり返して畑に蒔いた蕎麦の種の上を引きずっていただけと教わりました。

確かにそのような作業を行うと、一部の種は土にまぶされますが、どう見ても賽の河原のような畑で本

当に蕎麦が育つのだろうか、失礼とは思いつつ半ば不安でした。

ところが10月に再度訪問すると蕎麦の花が満開で、あの賽の河原はどこへ行ったのと我が目を信じられない状態でした。午後からの草刈作業で使用した草刈機は、過去に扱ったことがあるので、慣れるまで時間はかかりませんでした。炎天下の作業は流石に疲れました。

作業終了後、コミュニティセンターへ移動し、冷たいドリンクとスイカを頂いたときは、それまでの疲労感がどこかへいくような、そんな錯覚を覚えました。ここ小河江地区は、テレビアニメの『日本昔話』に出てくるようなイメージです。自然が多く残り私自身癒されるような或いは、ほっとするようなそんな地区です。



今回、初めてボランティア活動として参加させていただき、初めてお会いするメンバーと楽しく作業をさせていただきました。

当日は、素人集団を丁寧に指導いただき有難うございました。

初山さまは8月の研修会に参加されたのをきっかけに、ふるさとむら小河江に地区登録されました。この交流の集いで事例発表下さった後も、集落の方々と一緒になって、蕎麦打ちや交流会を通じて、地域資源の掘り起こしなど、むらづくりへの参画を始めておられます。

交流の集いでは、小河江地区で一緒に活動を始めてみようと思われる方を募集されました。興味のある方は、事務局までご連絡ください。



初山修一郎さま

お二人に事例発表を頂いた後、4つのグループに分かれて、意見交換を行いました。なかなか自分に合ったふるさとむらが見つからない方や、ボランティアの高齢化を危惧する声も聞かれました。また、ボランティアとふるさとむらの間をうまく取り持つ事務局的な立場の組織が中にあれば、スムーズな活動に繋がるのではないかとといった意見も出ました。ご参加くださった皆さんが、それぞれの今後の活動に活かしていけるような情報をお持ち帰り頂けたでしょうか。事務局としましても、皆様から頂きました貴重なご意見を今後活かしていきたいと思っております。



編集・発行 (社)兵庫みどり公社 兵庫楽農生活センター 楽農交流課 農村ボランティア事務局

所在地 : 〒651-2304 神戸市西区神出町小束野 30-17

電話 : 078-965-2651 FAX : 078-965-2653

e-mail : koryu@forest-hyogo.jp HP : <http://hyogo-rakunou.com/nousonbora/>